



会長 藤嶋 伸一郎

平素は、私ども豊田信用金庫に対し格別のご愛顧を賜りまして、誠に有難く厚くお礼申し上げます。ここに当金庫の2025年度の事業内容をお伝える「TOYOSHIN REPORT2026豊田信用金庫の現況」を作成しましたので、ご報告させていただきます。

2025年度の経済動向を概観いたしますと、国内では、企業収益や設備投資の改善、賃上げの進展などを背景に景気は緩やかな回復基調を維持した一方、物価上昇の影響や中小企業の回復の遅れなどの課題も見られました。また、米国を中心とした相次ぐ関税措置の拡大や見直しに加え、2026年2月末における米国・イスラエルによる軍事行動を契機とした中東情勢の緊迫化による資源価格の高騰や為替の変動など、複数の外部要因により経営環境に大きな影響を受けました。引き続き、物価、賃金、市場金利等の経済指標を注視しながら日々変化する収益環境に適切に対処してまいります。

当金庫は地域の皆様にご満足いただける金融商品、サービスの提供に努めてまいりました。

新規商品につきましては、事業者限定定期積金「プレミアムBiz」ならびにしんぎんの共済制度「日本フルハップ」の取扱いを新たに開始いたしました。

新規業務につきましては、豊田市社会福祉協議会との協働により入院時や施設入所の際の費用支払い手続き等の支援を行う「身寄りを頼ることができない方への支援事業」へ参入いたしました。

今後もお客様の多様なニーズに対応し、商品・サービスの充実による利便性向上に努めてまいります。

業績面を見ますと、預金につきましては、期末残高で1兆8,482億円（前期比390億円2.0%減）となりました。預金残高減少の主要因は、公金預金入札金利の急騰を受けて、経済合理性の観点から落札を見合わせたことで、公金預金が931億円減少したことにあります。一方、信頼のバロメーターである個人、法人のお客様からの一般預金は540億円増加



理事長 大橋 宏

し、安定した預金基盤を維持しております。貸出金につきましては引き続き物価やエネルギー価格の上昇等により影響を受けた事業者の皆様への継続支援ならびに住宅ローン等の供給に努めた結果、9,844億円（前期比297億円3.1%増）となりました。これに伴い、預貸率は期末残高において53.26%と前期比2.68ポイントの上昇となりました。

収益面では、市場金利の上昇等に伴い、貸出金利息収入が前期比20億円増加、預け金利息収入が13億円増加したほか、終身保険の利率上昇や新NISA制度の普及を背景として預かり資産販売が堅調であったことから役務取引等収益が2億円増加いたしました。

費用面では、政策金利の引き上げ等の影響から預金支払利息が前期比44億円増加しました。また、投資効率改善を目的としてロークーポン債券のロスカットを行い、国債等債券売却損28億円を計上した影響で業務純益は1億円（前期比34億円94.9%減）となりました。しかしながら、経常利益は31億円（前期比7億円18.3%減）、当期純利益は23億円（前期比5億円17.6%減）を確保しており、金庫の収益性に特段の懸念はございません。

今期が最終年度となる中期経営計画「Challenge for TX（とよしんトランスフォーメーション）2024」に取組み、ビジョンとする「これからもずっととよしん」のもと、お客様に選ばれる金庫、職員が働きたいと思う金庫、地域とともにあり続ける金庫を目指してまいります。

特に重点取組項目として、(1)「金融仲介機能とお客様本位の業務運営の推進による積極的なお取引先様支援」、(2)「自ら学び考え行動する人材育成と全職員が活躍する組織づくり」、(3)「リスク管理態勢の高度化」を進め、各種経営課題や計数目標に挑戦し、地域金融機関としての強固な経営基盤を確立してまいります。

地域の皆様には、引き続きなお一層のご支援ご鞭撻を賜りたく、謹んでお願い申し上げます。

2026年7月